

第1回サガルマータ対話
(於：ネパール・カトマンズ)
生稲政務官スピーチ
2025年5月16日(金)

御列席の皆様、
ナマスカール（こんにちは）！

日本政府を代表して、第一回「サガルマータ・サンバード」の開催に祝意を表するとともに、ネパール政府からの御招待に感謝申し上げます。

多くの当事者の参加を得た対話の場は、気候変動問題解決のためのアクション・プランを検討していく上で、非常に有用です。マルチステークホルダーが集う対話の場を、「サガルマータ・サンバード」として設けられたネパール政府のイニシアティブに敬意を表します。

「気候変動は、人類そのものの存在に関わる安全保障上の問題であり、気候変動がもたらす異常気象は、我が国の安全保障に様々な形で重大な影響を及ぼす。」

2022年に決定された日本の国家安全保障戦略には、このような一節があります。この認識は、日本だけではなく、多くの国で共有されていると思います。この問題を解決しなければ、人類が生存できる世界を、後世に残せないかもしれない。そういう危機感のもと、国際社会の叡智と努力を集結し、課題解決に共に取り組んでいくことが不可欠です。

先週、私はマーシャル諸島共和国 (Republic of the Marshall Islands) を訪問しました。美しい海と人々の魅力的な国です。マーシャル諸島は環礁の国であり、平均海拔はわずか2メートルです。気候変動と海面上昇という問題が国の存亡に直結していることを実感したところです。

現在の国際社会は、時代を画する変化に直面しています。パワーバランスの変化と地政学的競争の激化の中、国際社会の分断は更に深刻なものとなっています。同時に、気候変動を始めとする地球規模課題はますます深刻化し、多くの国が経済成長の減速と経済格差の拡大に見舞われています。

こうした「複合的危機」をどのように克服できるのか、がいま問われています。

このため、日本は、あらゆるステークホルダーと連携し、この問題の克服にコミットします。

まず、日本は、率先して、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。2050年ネット・ゼロの実現に向け、2013年度比で2035年度60%、2040年度73%削減という野心的な目標を掲げており、着実に実施していきます。

同時に、温室効果ガス削減の「緩和」、気候変動による被害の回避・軽減の「適応」の両方において、開発途上国の取組を支援していくことも重要です。日本は、こうした途上国が抱える課題にきめ細やかに対応しながら、日本の強みを活かした支援を行います。

御列席の皆様、

本日は、日本の支援のアプローチについて、特に3つのことを申し上げたいと思います。

第一に、人間の安全保障の理念に基づき、開発課題の解決を図ると同時に、気候変動対策にも資する「コベネフィット（共通便益）型」支援です。気候変動対策は、短期的に効果が現れづらいことから、後回しにされがちです。日本は、電力・エネルギー、都市開発、森林保全等の分野で、途上国の開発課題の解決を図りながら、脱炭素の実現と、気候変動の負の影響に強靱な社会の構築を目指した支援を行っています。

第二に、日本の知見や技術の活用と、イノベーションの促進です。洪水などの自然災害への対応や防災は、日本に「一日の長」があります。これまで日本は、国際防災協力の指針である仙台防災枠組の策定など、国際場裡における防災対策の推進に積極的に貢献してきました。同時に、日本も試行錯誤の中で取り組んでいる課題であり、叡智を持った産・官・学の連携や、各国との共創の視点が重要です。日本は対等なパートナーとして、各国の実情に合わせた解決策の「共創」を目指します。

第三に、各ステークホルダーとの連携です。気候変動対策は、国境を越えて取り組むべき課題であり、地域内の多様なパートナーとの連携を促進します。気候変動対策は多くの資金を必要とするため、GCF 等の外部資金の活用、民間企業との連携を進めます。

御列席の皆様、

ここネパールでも、洪水や土砂災害などの自然災害が多発しています。ネパールの人々の生活資材や収入源となっている豊かな森林を守るとともに、洪水の被害から人々を守ることが喫緊の課題となっています。

日本は JICA を通じ、1990 年代からネパールの森林保全に取り組んできました。日本人専門家がコミュニティに入り、今や森林の守り手となっている女性達を始め、住民と対話しながら森林保全の協力を進めています。昨年からは、洪水リスクが高いスンサリ郡・モラン郡において、洪水対策強化のための取組も始めています。

皆様、共に力を合わせて、この複合的危機を乗り越え、豊かな世界を後世に残していきましょう。日本は、これからも、我が国の経験や技術の活用、民間投資の促進などを通じて、課題を抱える国々にきめ細やかに寄り添いながら、世界の脱炭素化に貢献してまいります。

御静聴ありがとうございました。

(了)